



Market Forecasts by Y. san -12月-

鉄スクラップ →

11月の鉄価格の指標となる東京製鉄宇都宮工場の特級価格は先月10日の改定から11月28日時点まで41,500円/トンで変わりなし。12月に関しては、上げ下げ共に要因が見られない。横ばいでしょう。

銅 →

11月はLME9,350ドル/トン国内銅相場1,480,000円/トンでスタート。その後、中国全人代での大規模景気刺激策期待で上げ、トランプ大統領当選により下げました。28日時点LME8,900ドル/トン、国内銅建値1,410,000円/トン。12月は円高が進んでいる為、更に下がると思われます。

11月予測の自己評価

鉄スクラップ; × 銅; ○ アルミ; ×

アルミ →

11月のLMEは2,600ドル/トンでスタート。28日時点で2,560ドル/トンと大きな動きは見られませんでした。12月に関しては自動車、建築材向けの減少と缶材の復調で横ばいと思われる。

産業廃棄物

産廃の委託契約書の電子化が進んでいます。DX推進を掲げている会社は、まずはペーパーレス化として契約書を紙から電子へ移行させている。印紙不要や郵便不要、印刷不要、そして見えない人件費の削減につながる導きの主な理由。そして時代の流れ。紙でも電子でも出来る環境づくりを作ることが先々の営業につながると思います。

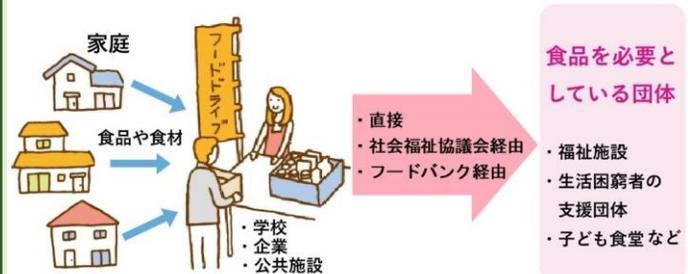
Topics

フードドライブ
～余った食品を寄付～

いよいよ師走。クリスマスやお正月に向けての料理を準備する楽しい時期となりました。しかし、本来食べられる食品にもかかわらず、廃棄されている食品を指す「食品ロス」。日本国内では年間約523万トン(令和3年度推計結果)、そのうち家庭からは約244万トン発生しています。一人あたりに換算すると、毎日お茶碗1杯(約114g)を捨てている計算になります。

近年、国際的な課題となっている、食品ロス。家庭から出る食品ロスには、食卓にのぼったものの食べ切れずに廃棄された「食べ残し」、野菜の皮や茎など食べられるところまで切って捨ててしまう「過剰除去」、未開封のまま食べずに捨ててしまう「直接廃棄」があります。このうち、食べ残しと過剰除去は近年減少傾向にありますが、直接廃棄は横ばい状態。

家庭では「食材を買いすぎない」「料理を作りすぎない」「食材が長持ちする方法で保存する」ほか、直接廃棄を減らす心がけが大切です。その一つが「フードドライブ」への協力です。フードドライブとは、挿絵のように、家庭で余っている食品を回収拠点(スーパーや自治体など)やイベントに持ち寄り、地域の福祉施設や子ども食堂、生活困窮者支援団体などに寄付する活動のことで、発祥はアメリカとのことです。よく耳にする「フードバンク」とは、寄付された食品を銀行のように集め、食品を必要としている所に配布する団体のことです。



年末年始に買い過ぎてしまった餅や乾物、菓子や調味料。お歳暮やお中元でいただいたものの、持て余している缶詰やレトルト食品、飲料などはありませんか? ぜひ、必要な人に届けましょう。近隣のフードドライブ窓口で寄付してみてください。

ただし、回収する食品には、団体によって条件があります。「未開封であること」「賞味期限まで2カ月以上あること」「常温保存が可能であること」「製造者または販売者、成分表示またはアレルギー表示があること」を条件に挙げる団体が多く、冷蔵・冷凍品やアルコール類などは、回収していない団体が多いとのことです。寄付に訪れる前に団体の条件を確認しておくことをお勧めいたします。

フードドライブの身近な例として、環境省ホームページに掲載されているファミリーマートを紹介いたします。

ファミリーマートは、全国47都道府県の2600店舗(2023年11月時点)に回収箱を常設し、2021年4月～2023年8月に集まった食品は約138.5トン。実施店舗に持っていき、回収ボックスに入れるだけでOK。スタッフによる受付手続きなどもなく、気軽に参加できるとのことです。



出典及び加工した資料: 環境省「エコジ」

<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/action/20240124.html>

Series

美術大学の一風変わった授業



サイクルーズ 経営企画部
三谷薫子

私の母校である武蔵野美術大学の、一風変わった授業についてお話しします。通常美術大学では、自分の所属している専攻の実技授業以外にも、学科・授業があります。言語や体育の科目も勿論ありますが、東洋美術史、西洋美術史などおそらく美術大学ならではの授業も多くあります。ここまでは想像がしやすいかと思いますが、中でも一風変わった授業を2つご紹介いたします。

①関野吉晴氏の「文化人類学」

探検家・人類学者である関野吉晴さんの授業です。大学内でも1番人気と言える授業で、学内で最も大きな講義室がいっぱいに埋まるほど学生が履修していました。

関野さんは、「グレートジャーニー」=6万年前に世界中に拡散して行った人類の旅路を約9年間かけ自らの脚だけで辿る旅をしていました。車や鉄道などの近代動力を使わずにそのとてつもなく長い距離を冒険されたということで、想像が付きません。

この授業では、その「グレートジャーニー」の冒険の映像を見ながら経験談を聞くのですが、民族の人々と全く同じ生活を送り、例えば石器を一から作り、狩りをして捌き、その民族の方法で調理するなど想像するだけでも本当に過酷すぎる旅ですが、衝撃的な映像とエピソードがとても面白く毎回授業が楽しかったです。

現在は大学教授を退任されていますが、ユニークなワークショップなどでの活躍を耳にします。在学中に一度参加した「イノシシ丸焼き会」は毎年恒例で行っているそうです。

かなりワイルドなタイトルですが、いただいた命を最後まで残さずにみんなで食すという内容でした。YouTubeでも「グレートジャーニー」の動画が上がっていますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。

②動物解剖学の授業

動物の解剖学を学ぶ授業もありました。大人数が受講するため基本的に講義スタイルで、実際に解剖することはありませんが、その講義がとてもユニークでした。中でも印象的だったのが、ディズニー映画の「ズートピア」を見ながら解剖学を学ぶ授業でした。「ズートピア」はアニメーションなのでかなりデフォルメされていますが、実は骨格から本物の動物に近い形で設定され、関節や筋肉のつき方など、しっかりと解剖学に従いデザインされているそうです。映画を見ている、普段なかなか注目しない場面ですが、違う視点で見ても面白いのです。余談ですが、私の所属していた彫刻学科は、受験勉強で解剖学の勉強が必要となります。

人体の骨格や筋肉を学び、正しく人体を描いたり彫刻できるかという点が、評価で非常に重視される学科です。実際に試験内容に人体や鳥、ウサギなどの小動物が出題されることがあります。その影響もあり、解剖学には関心があったのでこの授業はとても興味深かったです。

最後に今回もenloopのご紹介となりますが、12月5日(木)から12月7日(土)で原宿駅前で開催される「ETHICAL DESIGN WEEK TOKYO 2024」に初参加致します。今回は3日間の展示と、12月6日(金)限定のワークショップを行います。是非お越しくださいませ。(次回へ)

